

第133回 定時株主総会 招集ご通知



開催日時

2023年6月29日（木曜日）
午前10時（受付開始：午前9時）



開催場所

東京都新宿区西新宿三丁目7番1号
新宿パークタワー3階
パークタワーホール

株主様へのお願い

株主総会へのご出席につきましては、開催日当日における新型コロナウイルスの感染状況やご自身の体調等をご勘案のうえ、慎重にご判断をいただけますようお願い申し上げます。

なお、当日のご来場に代えて、インターネット又は書面（郵送）による事前の議決権行使もご活用いただけます。

議決権行使期限

2023年6月28日（水曜日）
午後5時30分まで

目次

招集ご通知	1
株主総会参考書類	5
■ 決議事項	
第1号議案 剰余金の処分の件	
第2号議案 定款一部変更の件	
第3号議案 取締役（監査等委員であるものを除く）8名選任の件	
第4号議案 監査等委員である取締役4名選任の件	
第5号議案 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件	
事業報告	26
連結計算書類	51
計算書類	54
監査報告書	57

東亜建設工業株式会社

証券コード：1885

株主各位

証券コード 1885
2023年6月7日
(電子提供措置の開始日2023年5月30日)

東京都新宿区西新宿三丁目7番1号
東亜建設工業株式会社
代表取締役社長 早川 毅

第133回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第133回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご案内申し上げます。

本株主総会の招集に際しては電子提供措置をとっており、インターネット上の下記ウェブサイトにて「第133回定時株主総会招集ご通知」及び「第133回定時株主総会その他の電子提供措置事項（交付書面省略事項）」として電子提供措置事項を掲載しております。

当社ウェブサイト <https://www.toa-const.co.jp/ir/news/>

また、上記のほか、インターネット上の下記ウェブサイトにも掲載しております。

東京証券取引所ウェブサイト <https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>

上記ウェブサイトにてアクセスして、当社名又は証券コードを入力・検索し、「基本情報」「縦覧書類/PR情報」を順に選択のうえ、ご覧ください。

株主総会へのご出席につきましては、開催日当日における新型コロナウイルスの感染状況やご自身の体調等をご勘案のうえ、慎重にご判断をいただけますようお願い申し上げます。

当日ご出席いただけない場合は、インターネット又は書面（郵送）による事前の議決権行使もご活用いただけますので、2023年6月28日（水曜日）午後5時30分までに議決権を行使くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 2023年6月29日（木曜日）午前10時（受付開始 午前9時）

2. 場 所 東京都新宿区西新宿三丁目7番1号
新宿パークタワー3階 パークタワーホール
(ご来場の際には、末尾の株主総会会場ご案内図をご参照ください。)

3. 会議の目的事項

報告事項

- 第133期（2022年4月1日から2023年3月31日まで）事業報告の内容、連結計算書類の内容並びに会計監査人及び監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件
- 第133期（2022年4月1日から2023年3月31日まで）計算書類の内容報告の件

決議事項

- 第1号議案 剰余金の処分の件
- 第2号議案 定款一部変更の件
- 第3号議案 取締役（監査等委員であるものを除く）8名選任の件
- 第4号議案 監査等委員である取締役4名選任の件
- 第5号議案 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件

4. その他株主総会に関する事項

当日ご欠席の株主様は、議決権を有する他の株主様1名を代理人としてその議決権を行使することもできます。なお、この場合は、代理権を証明する書面を当社にご提出いただく必要がありますのでご了承願います。

以 上

- ~~~~~
- お願い 当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。
 - 電子提供措置事項に修正が生じた場合は、掲載している各ウェブサイトにて修正内容を掲載させていただきます。

議決権行使についてのご案内

書面（郵送）またはインターネットにより議決権をご行使される場合



書面（郵送）により
議決権をご行使される場合

行使
期限

2023年6月28日（水曜日）
午後5時30分到着分まで

同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示いただき、行使期限までに到着するようご返送ください。議決権行使書面において、議案に賛否の表示がない場合は、賛成の意思表示をされたものとして取り扱わせていただきます。



インターネットにより
議決権をご行使される場合

行使
期限

2023年6月28日（水曜日）
午後5時30分まで

当社の指定する議決権行使ウェブサイトアクセスしていただき、行使期限までに議案に対する賛否をご入力ください。

なお、インターネットで複数回数、議決権を行使された場合は、最後の行使を有効な行使としてお取り扱いいたします。

書面とインターネットにより、重複して議決権を行使された場合は、インターネットの行使を有効な行使としてお取り扱いいたします。

詳細は次ページをご覧ください。

株主総会にご出席される場合



開催
日時

2023年6月29日（木曜日）午前10時

同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

開催
場所

東京都新宿区西新宿三丁目7番1号
新宿パークタワー3階 パークタワーホール

「スマート行使」によるご行使

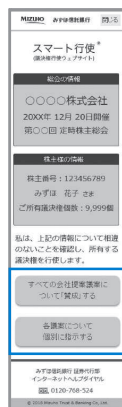
議決権行使コード及びパスワードを入力することなく議決権行使ウェブサイトへログインすることができます。

1 スマートフォン用議決権行使ウェブサイトへアクセス

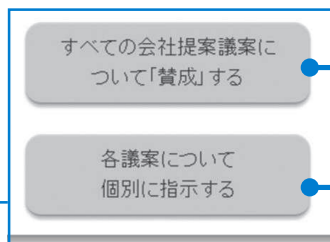
同封の議決権行使書用紙の右下「スマートフォン用議決権行使ウェブサイトログインQRコード®」をスマートフォンかタブレット端末で読み取ります。



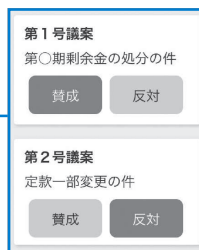
2 議決権行使方法を選ぶ



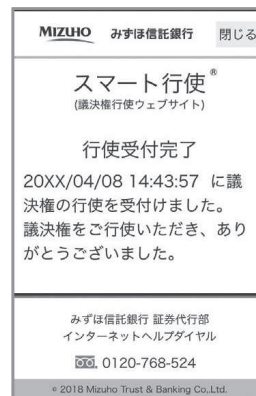
表示されたURLを開くと議決権行使ウェブサイト画面が開きます。
議決権行使方法は2つあります。



3 各議案について個別に指示する場合、画面の案内に従って各議案の賛否をご入力ください



4 確認画面で問題なければ「この内容で行使する」ボタンを押して行使完了



一度議決権を行使した後で行使内容を変更される場合、再度QRコード®を読み取り、議決権行使書用紙に記載の「議決権行使コード」「パスワード」をご入力いただく必要があります。

※「QRコード」は株式会社デンソーウェブの登録商標です。



インターネットによるご行使

1 議決権行使ウェブサイトへアクセスしてください

*** 議決権行使ウェブサイト ***

- 本サイトにご利用にあたっては、ご自身の住所をお知らせください。【次へすすむ】ボタンよりご利用ください。
- 画面を閉じる場合は、Webブラウザを終了してください。

【初期ご登録電子投票モード】

- 届出ご登録電子投票が中心となります。
- メールアドレスは必須となります。
- ご登録メールアドレスの変更またはお申し込みはできません。

議決権行使ウェブサイト

<https://soukai.mizuho-tb.co.jp/>

■「次へすすむ」をクリック



2 議決権行使書用紙に記載された「議決権行使コード」をご入力ください

*** ログイン ***

- 議決権行使コードを入力し、【次へ】ボタンをクリックしてください。
- 議決権行使コードは議決権行使書用紙に記載されています。【電子メール】により投票ご登録ご住所に届きます。【電子メール】により投票ご登録ご住所に届きます。【電子メール】により投票ご登録ご住所に届きます。【電子メール】により投票ご登録ご住所に届きます。

議決権行使コード:

■「議決権行使コード」*を入力し、「次へ」をクリック

3 議決権行使書用紙に記載された「パスワード」をご入力ください

*** パスワード変更 ***

- パスワードを設定してください。
- 議決権行使書用紙に記載のパスワードと新しいパスワードを入力し、【登録】ボタンをクリックしてください。
- パスワードをキーボードで入力される場合は、右のアイコンをクリックしてください。

議決権行使書用紙に記載のパスワード:

ご使用になる新しいパスワード:

(任意のためおしり)

※数字の半角英数字のみ入力可能です。
※セキュリティの関係上、電話でご連絡することは一切、いたしませんので、新しいパスワードは必ずご確認ください。

■「初期パスワード」*を入力し、実際にご使用になる**新しいパスワード**を設定してください

■「登録」をクリック

※「議決権行使コード」「初期パスワード」は、お手元の議決権行使書用紙の所有株式数が印字されている面の左下に記載されています。

※インターネット等による議決権行使は、当社の指定する議決権行使ウェブサイトをご利用いただくことによるのみ可能です。議決権行使ウェブサイトをご利用いただく際のプロバイダ及び通信事業者の料金（接続料金等）は、株主様のご負担となります。

4 以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください

インターネットによる議決権行使でパソコンやスマートフォン、携帯電話の操作方法などが不明な場合は、右記にお問い合わせください。

みずほ信託銀行 証券代行部 インターネットヘルプダイヤル
☎0120-768-524 (受付時間：年末年始を除く午前9時～午後9時)

議案及び参考事項

第1号議案 剰余金の処分の件

当社における利益配分につきましては、安定的な配当を継続することに重点をおきつつ、業績に応じた利益還元を行うことを基本方針としております。また、2020年度から2022年度までの中期経営計画におきまして、株主還元の指標として配当性向（単体）20%～30%を目標としております。

剰余金の処分につきましては、上記の基本方針を踏まえ、当期の業績、経営状況及び当社を取り巻く経営環境などを総合的に勘案し、以下のとおりといたしたいと存じます。

期末配当に関する事項

- (1) 配当財産種類
金銭
- (2) 株主に対する配当財産の割当てに関する事項及びその総額
当社普通株式1株につき90円 総額2,008,463,130円
- (3) 剰余金の配当が効力を生じる日
2023年6月30日

第2号議案

定款一部変更の件

(1) 提案の理由

監査等委員の役割がさらに重要性を増している中、監査体制の強化、充実を定款上担保するべく、監査等委員の員数の下限を、会社法第335条第3項が定める3名より1名多い4名と定めるものであります。

(2) 変更の内容

定款変更の内容は、次のとおりであります。

(下線は、変更部分を示します。)

現行定款	変更案
<p>(定員及び選任)</p> <p>第21条 当社の取締役（監査等委員であるものを除く）は、10名以内とし、監査等委員である取締役は<u>5名以内</u>とする。</p> <p>2～5 〈条文省略〉</p> <p>6 当社は、法令に定める監査等委員である取締役の員数を欠くことになる場合に備え、株主総会において補欠の監査等委員である取締役を選任することができる。</p>	<p>(定員及び選任)</p> <p>第21条 当社の取締役（監査等委員であるものを除く）は、10名以内とし、監査等委員である取締役は<u>4名又は5名</u>とする</p> <p>2～5 〈現行どおり〉</p> <p>6 当社は、法令又は定款に定める監査等委員である取締役の員数を欠くことになる場合に備え、株主総会において補欠の監査等委員である取締役を選任することができる。</p>

第3号議案

取締役（監査等委員であるものを除く）8名選任の件


本総会終結の時をもちまして、取締役（監査等委員であるものを除く。以下、本議案において同じ。）全員（8名）が任期満了となりますので、取締役8名の選任をお願いいたしたいと存じます。

取締役候補者は、次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
1	あき やま まさ き 秋 山 優 樹 (1952年8月3日生) 	1975年 4月 当社入社 2004年 4月 当社千葉支店長 2007年 6月 当社執行役員（横浜支店長） 2010年 4月 当社執行役員常務（土木事業本部長） 2010年 6月 当社取締役兼執行役員常務 （土木事業本部長） 2013年 4月 当社取締役兼執行役員専務 （土木事業本部長） 2014年 4月 当社代表取締役兼執行役員副社長 （安全環境部統括） 2015年 4月 当社代表取締役兼執行役員副社長 （国際事業本部、安全環境部統括） 2016年 4月 当社代表取締役兼執行役員副社長 2016年 6月 当社代表取締役兼執行役員社長 2022年 4月 当社代表取締役会長 現在に至る	15,500株

取締役候補者とする理由

秋山優樹氏は、現場の最前線におけるマネジメント経験や当社での経営者としての経験に基づき、強いリーダーシップと行動力を備えた人物であります。新中期経営計画を推進し、当社グループの中長期的な企業価値向上の実現のために、引き続きリーダーとして、当社グループ全体を指揮、監督し、当社の取締役としての職務を適切に遂行できるものと判断し、取締役候補者とするものです。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
2	<p>はや かわ たけし 早 川 毅 (1965年6月12日生)</p> 	<p>1989年 4 月 当社入社 2015年 4 月 当社大阪支店技術部長 2016年10月 当社土木事業本部土木部長 2020年 4 月 当社大阪支店長 2021年 4 月 当社執行役員（大阪支店長） 2022年 4 月 当社執行役員社長 2022年 6 月 当社代表取締役兼執行役員社長 現在に至る</p>	4,200株

取締役候補者とする理由

早川毅氏は、豊富な現場経験並びに現場の最前線におけるマネジメント経験に基づき、強いリーダーシップと行動力を備えた人物であります。
新中期経営計画を推進し、当社グループの中長期的な企業価値向上の実現のために、引き続きリーダーとして、当社グループ全体を指揮、監督し、当社の取締役としての職務を適切に遂行できるものと判断し、取締役候補者とするものです。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
3	ひろせよし か 廣瀬善香 (1960年1月7日生) 	1983年4月 当社入社 1993年8月 当社大阪支店建築現場所長 2006年3月 当社大阪支店建築部工事課工事長 2008年4月 当社大阪支店建築部長 2015年4月 当社建築事業本部建築部長 2017年4月 当社執行役員建築事業本部長 2018年6月 当社取締役兼執行役員(建築事業本部長) 2019年4月 当社取締役兼執行役員常務(建築事業本部長) 2022年4月 当社取締役兼執行役員専務 (建築事業本部長、技術研究開発センター統括) 2022年11月 当社取締役兼執行役員専務 (建築事業本部長(働き方改革推進責任者)、技術研究開発センター統括) 2023年4月 当社代表取締役兼執行役員副社長(建築部門 (建築営業本部・建築本部)・国際事業本部・ 安全環境品質本部・内部監査室統括) 現在に至る	3,900株

取締役候補者とする理由


廣瀬善香氏は、当社入社以来、長年建築事業部門に所属し、豊富な現場経験並びにマネジメント経験に基づき、強いリーダーシップと行動力を備えた人物であります。

新中期経営計画を推進し、当社グループの中長期的な企業価値向上の実現のために、引き続き建築部門のリーダーとして、当社グループ全体を指揮、監督し、当社の取締役としての職務を適切に遂行できるものと判断し、取締役候補者とするものです。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
4	ほん だ まさ と 本 多 将 人 (1962年3月31日生) 	1984年 4 月 当社入社 2006年 4 月 当社土木本部設計部西日本設計室長 2007年 4 月 当社土木事業本部設計部陸上グループリーダー 2009年 4 月 当社土木事業本部設計部次長兼陸上グループリーダー 2012年 4 月 当社土木事業本部設計部長 2015年 4 月 当社中国支店長 2016年 6 月 当社横浜支店長 2018年 4 月 当社執行役員(横浜支店長) 2019年 4 月 当社執行役員(東京支店長) 2020年 4 月 当社執行役員常務(東京支店長) 2022年 4 月 当社執行役員専務(経営企画本部長兼経営企画部長) 2022年 6 月 当社取締役兼執行役員専務 (経営企画本部長 兼経営企画部長) 2023年 4 月 当社取締役兼執行役員専務 (経営企画本部長、技術研究開発センター統括) 現在に至る	4,300株


取締役候補者とする理由


本多将人氏は、現場の最前線におけるマネジメント経験や当社での経営者としての経験に基づき、強いリーダーシップと行動力を備えた人物であります。新中期経営計画を推進し、当社グループの中長期的な企業価値向上の実現のために、引き続き経営企画部門のリーダーとして、当社グループ全体を指揮、監督し、当社の取締役としての職務を適切に遂行できるものと判断し、取締役候補者とするものです。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
5	<p>たか はし いさお 高 橋 功 (1959年7月27日生)</p> 	<p>1985年4月 当社入社 2012年4月 当社大阪支店土木部長 2013年4月 当社大阪支店次長兼土木部長 2014年4月 当社大阪副支店長 2016年4月 当社九州支店長 2019年4月 信幸建設株式会社代表取締役社長 2021年4月 当社執行役員常務（土木事業本部工事統括） 2022年4月 当社執行役員専務（土木事業本部長兼工事統括） 2022年6月 当社取締役兼執行役員専務 （土木事業本部長兼工事統括、洋上風力推進部統括） 2023年4月 当社取締役兼執行役員専務 （土木部門（土木営業本部・土木本部）・洋上風力推進部統括、土木本部長） 現在に至る</p>	3,000株

取締役候補者とする理由

高橋功氏は、当社入社以来、長年土木事業部門に所属し、豊富な現場経験並びにマネジメント経験に基づき、強いリーダーシップと行動力を備えた人物であります。
新中期経営計画を推進し、当社グループの中長期的な企業価値向上の実現のために、引き続き土木部門のリーダーとして、当社グループ全体を指揮、監督し、当社の取締役としての職務を適切に遂行できるものと判断し、取締役候補者とするものです。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
6	<div data-bbox="254 193 314 223" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">新任</div> <div data-bbox="254 247 474 338" style="text-align: center;"> <small>き むら かつ ひさ</small> 木村克尚 (1963年2月11日生) </div> <div data-bbox="254 379 470 625" style="text-align: center;">  </div>	1990年4月 当社入社 2014年4月 当社国際事業部土木部長 2017年4月 当社国際事業部営業部長 2020年4月 当社執行役員（国際事業副本部長） 2022年4月 当社執行役員（国際事業本部長） 2023年4月 当社執行役員常務（国際事業本部長） 現在に至る	5,200株
<p>取締役候補者とする理由</p> <p>木村克尚氏は、当社入社以来、長年国際事業部門に所属し、海外での現場経験並びにマネジメント経験に基づき、強いリーダーシップと行動力を備えた人物であります。新中期経営計画を推進し、当社グループの中長期的な企業価値向上の実現のために、国際事業部門のリーダーとして、当社グループ全体を指揮、監督し、当社の取締役としての職務を適切に遂行できるものと判断し、取締役候補者とするものです。</p>			

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
7	<p>なか お たけし 中尾 剛 (1967年9月27日生)</p> 	<p>1991年4月 当社入社 2015年4月 当社管理本部人事部次長兼人事課長 2016年4月 当社横浜支店総務部長 2017年4月 当社管理本部人事部長 2019年4月 当社経営企画部長 2022年4月 当社執行役員（管理本部長） 2022年6月 当社取締役兼執行役員（管理本部長） 2023年4月 当社取締役兼執行役員（管理本部長、秘書室統括） 現在に至る</p>	1,800株

取締役候補者とする理由

中尾剛氏は、長年管理部門に所属し、総務部門、人事部門、経営企画等での経験に基づき、強いリーダーシップと行動力を備えた人物であります。
新中期経営計画を推進し、当社グループの中長期的な企業価値向上の実現のために、引き続き管理部門のリーダーとして、当社グループ全体を指揮、監督し、当社の取締役としての職務を適切に遂行できるものと判断し、取締役候補者とするものです。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
8	<div data-bbox="254 205 314 232" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">社外</div> <div data-bbox="254 247 314 275" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">独立</div> <p data-bbox="254 293 474 384">くに や し ろう 国 谷 史 朗 (1957年2月22日生)</p> 	<p>1982年 4 月 弁護士登録（大阪弁護士会） 1982年 4 月 大江橋法律事務所（現弁護士法人大江橋法律事務所） 1987年 5 月 米国ニューヨーク州弁護士登録 1997年 6 月 サンスター株式会社社外監査役 2002年 4 月 弁護士法人大江橋法律事務所代表社員 2006年 6 月 日本電産株式会社社外監査役 2012年 3 月 株式会社ネクソン社外取締役 2012年 6 月 株式会社荏原製作所社外取締役 2013年 6 月 ソニーフィナンシャルグループ株式会社社外取締役 2013年 6 月 武田薬品工業株式会社社外監査役 2016年 6 月 同社社外取締役（監査等委員） 2018年 3 月 株式会社ネクソン社外取締役（監査等委員）（現任） 2019年 6 月 武田薬品工業株式会社社外取締役 2021年 6 月 当社社外取締役 2023年 2 月 弁護士法人大江橋法律事務所パートナー（現任） 現在に至る</p> <p>[重要な兼職の状況] 弁護士法人大江橋法律事務所パートナー 株式会社ネクソン社外取締役（監査等委員）</p>	0株
<p>社外取締役候補者とする理由及び期待される役割の概要</p> <p>国谷史朗氏は、弁護士法人大江橋法律事務所パートナーとして、また米国ニューヨーク州弁護士として、法曹としての企業法務や国際法務に関する豊富な経験と高い知見を有し、長年に亘り他社の社外監査役及び社外取締役を務められており、企業経営に関するグローバル且つ高度な見識を持たれていることから、当社における取締役の職務執行の監督強化の役割を十分に果たしていただけるものと判断し、社外取締役候補者とするものであります。同氏が社外取締役に再任された場合には、現地企業とのアライアンス強化も視野に入れた進出地域の拡大といった経営における重要事項の決定や業務執行の監督等の職務を適切に遂行いただくことを期待しております。なお、同氏の当社社外取締役としての在任期間は、本総会終結の時をもって2年となります。</p>			

(注) 1. 各取締役候補者と当社との間に、特別の利害関係はありません。

2. 役員等賠償責任保険契約について

当社は、役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者が業務に起因して損害賠償責任を負った場合における損害等を当該保険契約により填補することとしております。各取締役候補者の選任が承認された場合、当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。なお、役員等賠償責任保険の契約期間は、1年間であり、当該期間満了前に取締役会において決議のうえ、これを更新する予定であります。また、当該保険料は全額当社の負担となります。

3. 国谷史朗氏は、社外取締役候補者であります。

4. 社外取締役の独立性について

国谷史朗氏がパートナーを務める弁護士法人大江橋法律事務所及び社外取締役を務める株式会社ネクソンと当社との間に特別の関係はございません。なお、当社は同氏を東京証券取引所、札幌証券取引所の定める独立役員として届け出ております。

5. 責任限定契約について

当社は、業務執行を行わない取締役との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の責任について、善意かつ重過失がないときは、一定の限度を設ける契約を締結しており、当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が規定する最低責任限度額としております。


なお、国谷史朗氏の再任が承認された場合、当社は同氏との間で責任限定契約を継続する予定であります。

第4号議案**監査等委員である取締役4名選任の件**

本総会終結の時をもちまして、監査等委員である取締役全員（4名）が任期満了となりますので、監査等委員である取締役4名の選任をお願いいたしたいと存じます。


本議案の提出につきましては、監査等委員会の同意を得ております。

監査等委員である取締役候補者は次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
1	おがわのぶゆき 小川 信行 (1960年2月16日生) 	1982年4月 当社入社 2002年11月 当社大阪支店営業企画管理室長 2007年4月 当社四国支店管理室長 2008年4月 当社大阪支店総務部長 2014年4月 当社土木事業本部土木事業管理室長 2017年4月 当社建築事業本部建築事業管理室長 2019年6月 当社取締役（監査等委員） 現在に至る	3,200株


監査等委員である取締役候補者とする理由

小川信行氏は、当社入社以来、長年管理部門に所属し、そこで培われた知識や経験に基づき、監査等委員である取締役の職務執行並びに取締役の職務執行の監査強化を図るに十分な見識を有していると考え、監査等委員である取締役候補者とするものであり、当社において監査等委員である取締役としての職務を適切に遂行できるものと判断しております。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
2	<div data-bbox="254 205 314 232" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">社外</div> <div data-bbox="254 246 314 273" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">独立</div> <p data-bbox="254 293 474 384">おか むら まさ ひこ 岡 村 真 彦 (1951年7月21日生)</p> 	<p data-bbox="500 198 908 225">1976年 4 月 三井物産株式会社入社</p> <p data-bbox="500 232 1124 293">2004年10月 同社本店コンシューマーサービス事業本部 都市開発事業部長</p> <p data-bbox="500 303 1124 364">2007年 4 月 同社執行役員コンシューマーサービス事業 第二本部長</p> <p data-bbox="500 371 979 399">2009年 4 月 同社常務執行役員関西支社長</p> <p data-bbox="500 406 765 433">2011年 3 月 同社退職</p> <p data-bbox="500 441 837 468">2014年 6 月 当社社外取締役</p> <p data-bbox="500 476 988 536">2019年 6 月 当社社外取締役 (監査等委員) 現在に至る</p>	0株


監査等委員である社外取締役候補者とする理由及び期待される役割の概要

岡村真彦氏は、大手商社会社の要職を歴任され、豊富な経験から取締役の職務執行の監査・監督強化を図るに十分な見識を有していると考え、当社において社外取締役としての職務を適切に遂行いただけるものと判断し、社外取締役候補者とするものであります。同氏が社外取締役に再任された場合には、経営における重要事項の決定や業務執行の監督等の職務を適切に遂行いただくことを期待しております。なお、同氏の当社社外取締役としての在任期間は、本総会終結の時をもって9年となり、そのうち当社監査等委員である社外取締役としての在任期間は、本総会終結の時をもって4年となります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
3	<div data-bbox="254 204 314 231" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">社外</div> <div data-bbox="254 246 314 273" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">独立</div> <p data-bbox="254 291 474 340">わた なべ こう せい 渡 邊 光 誠</p> <p data-bbox="254 355 474 382">(1957年5月4日生)</p> 	<p>1984年 4 月 弁護士登録 (第二東京弁護士会)</p> <p>1989年 9 月 米国オメルベニー・アンド・マイヤーズ法律事務所</p> <p>1990年 2 月 米国ニューヨーク州弁護士登録</p> <p>1992年 3 月 尚和法律事務所パートナー</p> <p>1998年10月 渡邊光誠法律事務所設立 (後に渡邊国際法律事務所に改称)</p> <p>2001年 3 月 フューチャーシステムコンサルティング株式会社 (現フューチャー株式会社) 監査役</p> <p>2005年 9 月 外国法共同事業オメルベニー・アンド・マイヤーズ法律事務所パートナー</p> <p>2007年 6 月 弁護士法人大江橋法律事務所パートナー</p> <p>2009年 1 月 株式会社CHINTAI社外監査役</p> <p>2010年11月 株式会社エイブルCHINTAIホールディングス社外監査役</p> <p>2011年 6 月 日立建機株式会社社外取締役</p> <p>2016年 3 月 東京富士法律事務所パートナー (現任)</p> <p>2016年 4 月 フューチャー株式会社監査等委員である社外取締役</p> <p>2016年 5 月 株式会社NaITO監査等委員である社外取締役 (現任)</p> <p>2016年 6 月 当社社外取締役</p> <p>2019年 6 月 当社社外取締役 (監査等委員) 現在に至る</p> <p>[重要な兼職の状況] 東京富士法律事務所パートナー 株式会社NaITO監査等委員である社外取締役</p>	0株

監査等委員である社外取締役候補者とする理由及び期待される役割の概要

渡邊光誠氏は、法曹としての豊富な経験と高い知見を有し、長年に亘り他社の社外監査役及び監査等委員である社外取締役を務めていることから、当社における取締役の職務執行の監査・監督強化の役割を十分に果たしていただけると判断し、社外取締役候補者とするものであります。同氏が社外取締役に再任された場合には、経営における重要事項の決定や業務執行の監督等の職務を適切に遂行いただくことを期待しております。同氏は、過去において社外役員となる以外の方法で、会社経営に関与した経験はありませんが、上記の理由により、社外取締役としての職務を適切に遂行いただけるものと考えております。なお、同氏の当社社外取締役としての在任期間は、本総会終結の時をもって7年となり、そのうち当社監査等委員である社外取締役としての在任期間は、本総会終結の時をもって4年となります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
4	<div data-bbox="254 205 314 232" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">社外</div> <div data-bbox="254 247 314 275" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">独立</div> <p data-bbox="254 299 470 444">はん だ み ち 半 田 未 知 (さ さ の み ち) (佐々野 未知) (1970年10月19日生)</p> 	<p data-bbox="500 198 1165 571">1998年 3 月 公認会計士登録 1998年 9 月 KPMG LLP ニューヨーク事務所 2003年 2 月 有限責任あずさ監査法人 2006年 2 月 株式会社Bizコンサルティング設立 代表取締役社長 2008年 6 月 コントロール・ソリューションズ・インターナショナル株式会社 (現コントロールソリューションズ株式会社) 代表取締役副社長 2009年 1 月 同社代表取締役社長 (現任) 2019年 6 月 当社社外取締役 (監査等委員) 2021年11月 長谷エレジデンシャルプライベート投資法人監督役員 (現任) 2022年 3 月 株式会社オークネット監査等委員である社外取締役 (現任) 現在に至る</p> <p data-bbox="500 586 1165 697">[重要な兼職の状況] コントロールソリューションズ株式会社代表取締役社長 長谷エレジデンシャルプライベート投資法人監督役員 株式会社オークネット監査等委員である社外取締役</p>	0株
<p data-bbox="258 828 1316 858">監査等委員である社外取締役候補者とする理由及び期待される役割の概要</p> <p data-bbox="258 866 1332 1047">半田未知氏は、公認会計士及び税理士としての豊富な経験と高い知見を有し、また、内部統制、リスクマネジメント等のコンサルティング会社の経営者を務め、経営コンサルタントとして内部統制構築支援に携われており、当社における取締役の職務執行の監査・監督強化の役割を十分に果たしていただけると判断し、社外取締役候補者とするものであります。同氏が社外取締役に再任された場合には、経営における重要事項の決定や業務執行の監督等の職務を適切に遂行いただくことを期待しております。なお、同氏の当社監査等委員である社外取締役としての在任期間は、本総会終結の時をもって4年となります。</p>			

(注) 1. 半田未知氏につきましては、公認会計士登録名を氏名欄の()内に明記しております。

2. 各監査等委員である取締役候補者と当社との間に、特別の利害関係はありません。

3. 役員等賠償責任保険契約について

当社は、役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者が業務に起因して損害賠償責任を負った場合における損害等を当該保険契約により填補することとしております。各監査等委員である取締役候補者の選任が承認された場合、当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。なお、役員等賠償責任保険の契約期間は、1年間であり、当該期間満了前に取締役会において決議のうえ、これを更新する予定であります。また、当該保険料は全額当社の負担となります。

4. 社外取締役の独立性について

岡村真彦氏は、三井物産株式会社出身であり、同社と当社の間には、過去において、工事請負契約、業務委託契約等の取引関係がありますが、現在は取引はなく、当社が定める社外役員の独立性に関する基準に抵触しておりません。なお、当社は同氏を東京証券取引所、札幌証券取引所の定める独立役員として届け出ております。

渡邊光誠氏がパートナーを務める東京富士法律事務所及び監査等委員である社外取締役を務める株式会社NaITOと当社との間に特別の関係はございません。なお、当社は同氏を東京証券取引所、札幌証券取引所の定める独立役員として届け出ております。

半田未知氏が代表取締役社長を務めるコントロールソリューションズ株式会社、監督役員を務める長谷工レジデンシャルプライベート投資法人及び監査等委員である社外取締役を務める株式会社オークネットと当社との間に特別の関係はございません。なお、当社は同氏を東京証券取引所、札幌証券取引所の定める独立役員として届け出ております。

5. 責任限定契約について

当社は、業務執行を行わない取締役との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の責任について、善意かつ重過失がないときは、一定の限度を設ける契約を締結しており、当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が規定する最低責任限度額としております。

なお、各監査等委員である取締役候補者の再任が承認された場合、当社は各氏との間で責任限定契約を継続する予定であります。

【ご参考】

スキルマトリックス

	企業 経営	安全・ 環境・ 品質	財務 会計	技術	営業	法務	グロー バル	人材 開発	監査等 委員	指名・ 報酬 委員	経営 会議	ESG 委員
秋山 優樹	○	○		○			○				○	○
早川 毅	○	○		○	○		○			○	◎	◎
廣瀬 善香	○	○		○	○			○			○	○
本多 將人	○	○		○	○						○	○
高橋 功		○		○	○			○			○	○
木村 克尚 新任		○		○	○		○	○			○	○
中尾 剛	○		○			○		○		○	○	○
国谷 史朗 社外 独立	○					○	○					
小川 信行			○			○			◎		○	○
岡村 眞彦 社外 独立	○				○		○		○	◎		○
渡邊 光誠 社外 独立	○					○	○		○	○		
半田 未知 (佐々野 未知) 社外 独立	○		○			○	○	○	○	○		

- (注) 1.チェック項目は取締役のすべての知見や経験を示すものではありません。
 2.「◎」は委員長、議長を表します。
 3.本株主総会終了後の監査等委員会において、委員長を社外取締役とする予定です。

スキル	定義
企業経営	社会経済の動向を踏まえ、中長期的な視点で経営方針・経営戦略を構築し、適宜適切な意思決定を行い、会社の事業全般を運営・推進する。
安全・環境・品質	建設現場における労働災害・環境事故の防止に向けた専門的知識と十分な経験を有し、災害の撲滅を推進する。脱炭素等地球環境に対する社会的要請を理解し、それを事業機会の創出につなげる知見を有する。
財務・会計	企業経営を財務面から客観的に分析し、設備投資等の状況を踏まえ必要な資金調達手段を検討するなど財務政策を立案するとともに、外部に対して適切な財務会計情報を提供する。
技術	土木・建築の技術について、高度な専門的知識と十分な経験を有し、デジタル技術等を活用して各事業及び研究開発を推進する。
営業・マーケティング	土木・建築・海外の各事業の市場動向に精通し営業戦略を描き推進する。
法務・リスクマネジメント	企業法務に精通し、リスクコントロールにおける重要な判断、経営戦略における法務的評価を担う。 また、健全な倫理観に基づき、コンプライアンス違反を未然に防ぐ。
グローバル	世界的な建設市場やリスクの動向及び海外ビジネスに関する豊富な知見・経験を有し、海外事業戦略を推進する。
人材開発・ダイバーシティ	将来に亘って事業継続が可能となるような人材を育成する知識・経験等を有する。また、女性・外国人・障がい者等、多様な人材を育成する知識・経験も有する。

役員のダイバーシティ（多様性）について

当社は、取締役会が多様なスキル、考え方、経験を持つ取締役で構成されることの重要性を認識しており、そのような多様性は幅広い視点と洞察力を提供することによって企業に利益をもたらすと考えています。

本総会后（可決を前提として）、取締役12名中、独立社外取締役は4名、（うち女性取締役は1名、構成比8%）という取締役会構成となりますが、取締役会における女性取締役の割合を1年以内に10%以上に高める方針のもと、取締役会の更なる機能発揮と多様性確保に努めてまいります。

政策保有株式に関する考え方と削減状況について

当社は、継続保有の合理性が認められない政策保有株式を縮減する方針のもと、年に一度各保有株式の便益やリスクが資本コストに見合っているかなどの定量評価と中長期的な企業価値向上に資するか否か等の定性評価の両面で精査し、政策保有株式の保有継続、売却等についての判断をしております。

なお、中期経営計画（2023～25年度）において、「政策保有株式については、本中期経営計画期間中に、対純資産10%以内を目指し縮減」する方針です。

当期末における現況は以下のとおりであります。

	2023年3月末時点		2022年3月末時点	
	銘柄数	貸借対照表計上額の合計額（百万円）	銘柄数	貸借対照表計上額の合計額（百万円）
非上場株式	40	1,477	41	1,477
非上場株式以外の株式	32	8,178	34	8,375

<当事業年度における政策保有株式の削減（売却額）>

	銘柄数	売却金額（百万円）
非上場株式	1	2
非上場株式以外の株式	6	717

第5号議案


補欠の監査等委員である取締役1名選任の件

監査等委員である取締役が法令もしくは定款に定めた員数を欠くこととなる場合に備え、すべての監査等委員である取締役の補欠として、予め補欠の監査等委員である取締役1名の選任をお願いしたいと存じます。

なお、本議案による選任につきましては、監査等委員である取締役就任前に限り、監査等委員会の同意を得て、取締役会の決議によりその選任を取り消すことができるものといたします。

本議案の提出につきましては、監査等委員会の同意を得ております。

補欠の監査等委員である取締役候補者は、次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
1	<p>社外</p> <p>せきねがなこ 関根嘉奈子 (1959年9月16日生)</p> 	<p>1984年3月 Smith Barney, Harris Upham & Co. Inc.東京支店企業金融部</p> <p>1988年9月 Smith Barney, Harris Upham & Co. Inc. ニューヨーク投資銀行本部</p> <p>1993年4月 European Bank for Reconstruction and Development (欧州復興開発銀行) ロンドン本部</p> <p>1998年11月 Sevryba International Shipping Ltd. 社外取締役</p> <p>1999年8月 欧州復興開発銀行 ロンドン本部 金融機関担当局長</p> <p>2000年5月 SKB Banka D.D. 社外取締役</p> <p>2002年4月 Ceskoslovenska obchodni banka, a.s. (ČSOB) 社外取締役、報酬・指名委員会</p> <p>2008年8月 Troika Capital Partners 最高執行責任者(COO), マネージングディレクター</p> <p>2011年2月 欧州復興開発銀行 ロンドン本部 ポートフォリオ管理部門上級局長</p> <p>2016年5月 Sompo Sigorta A.S. 社外取締役</p> <p>2018年5月 欧州復興開発銀行 退職</p> <p>2019年3月 Kyrgyz Investment and Credit Bank 社外取締役(現任)</p> <p>2021年6月 European Fund for Southeast Europe, SA SICAV-SIF 取締役会コンサルタント (非常勤)</p> <p>現在に至る</p>	0株

補欠の監査等委員である取締役候補者とする理由及び期待される役割の概要

関根嘉奈子氏は、多国籍、多文化、多様性を最先端で実践している米国、欧州等の金融機関、国際機関で要職を歴任され、サステナビリティを原則とした投資、コーポレートガバナンス、リスク管理などに関する高い知見とグローバルな感性、豊富な経験を有しており、当社における取締役の職務執行の監査・監督強化の役割を十分に果たしていただけると判断し、補欠の監査等委員である取締役候補者とするものであります。同氏が選任され、監査等委員である取締役に就任された場合には、経営における重要事項の決定や業務執行の監督等の職務を適切に遂行いただくことを期待しております。

(注) 1. 補欠の監査等委員である取締役候補者と当社との間に、特別の利害関係はありません。

2. 役員等賠償責任保険契約について

当社は、役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者が業務に起因して損害賠償責任を負った場合における損害等を当該保険契約により填補することとしております。補欠の監査等委員である取締役候補者の選任が承認され、監査等委員である取締役に就任した場合、当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。なお、役員等賠償責任保険の契約期間は、1年間であり、当該期間満了前に取締役会において決議のうえ、これを更新する予定であります。また、当該保険料は全額当社の負担となります。

3. 社外取締役の独立性について

関根嘉奈子氏が社外取締役を務めるKyrgyz Investment and Credit Bankと当社との間に特別の関係はございません。なお、当社は同氏が監査等委員である取締役に就任した場合、同氏を東京証券取引所、札幌証券取引所の定める独立役員として届け出る予定であります。

4. 責任限定契約について

当社は、業務執行を行わない取締役との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の責任について、善意かつ重過失がないときは、一定の限度を設ける契約を締結しており、当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が規定する最低責任限度額としております。

なお、補欠の監査等委員である取締役候補者の選任が承認され、監査等委員である取締役に就任した場合、当社は候補者との間で責任限定契約を締結する予定であります。

事業報告

(2022年4月1日から
2023年3月31日まで)

I 企業集団の現況に関する事項

1 事業の経過及び成果

当期の我が国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、経済活動の正常化が進んだことで景気の持ち直しの動きが見られましたが、ウクライナ情勢等を背景とした資源や原材料価格の高騰、為替の変動など、今後の先行きは不透明な状況にあります。

しかし、建設市場におきましては、大型工事を中心とした受注競争が激化していることや、原材料価格の高騰等による企業収益の悪化が懸念されることから、先行きが見通せない状況が続いているものの、公共投資については堅調に推移し、将来に向けても「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」に基づく防災・減災対策や、防衛力強化に伴う安全保障関係のインフラ整備など、底堅い推移が期待できる状況にあります。

このような環境の下、当社グループは2020年に策定した10年後のあるべき姿「社会を支え、人と世界をつなぎ、未来を創る」長期ビジョン〈TOA2030〉を掲げ、長期ビジョンの実現に向けて、2020～2022年度を事業構造の変革に注力するための期間と位置づけた「中期経営計画（2020～2022年度）」を着実に推進し、当社の経営理念である「高い技術」と「誠実な施工」により、お客様に納得していただける高い品質のものをお届けすること、生産性・安全性の一層の向上のための先端技術を導入すべく積極的な投資を行うこと、また、社員のコンプライアンス意識向上に常に取り組み、誠実な企業風土を醸成していくことで、ステークホルダーの皆様と社会の期待に応えられる持続的成長企業となることを目指してまいりました。

当期の当社グループの連結業績につきましては、売上高は213,569百万円（前連結会計年度比2.8%減）となりました。営業利益は6,555百万円（前連結会計年度比33.6%減）、経常利益は6,614百万円（前連結会計年度比34.8%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は4,835百万円（前連結会計年度比34.5%減）となりました。

次に、当連結会計年度における当社グループの主要な業績をセグメント別にご報告いたします。

【国内土木事業】

海上土木分野を中心に、港湾・鉄道・道路などのインフラ・社会資本の整備に継続的に取り組んでおります。前連結会計年度と比べて大きく売上高を計上する案件が減少したことから、当連結会計年度の売上高は102,293百万円（前連結会計年度比7.1%減）となりました。また、売上高の減少に伴い、セグメント利益（営業利益）は、6,983百万円（前連結会計年度比17.1%減）となりました。

なお、当社個別の受注高につきましては、大型港湾土木工事の受注により、149,622百万円（前連結会計年度比36.2%増）と高水準を維持しております。

【国内建築事業】

特命案件・企画提案案件・設計施工案件の受注拡大に取り組んでおります。一部工事で着工が遅れたことなどにより、当連結会計年度の売上高は53,128百万円（前連結会計年度比5.6%減）となりました。また、売上高の減少及び原材料価格の高騰等の影響を受けたことにより、セグメント損失（営業損失）は337百万円（前連結会計年度はセグメント利益2,727百万円）となりました。

なお、当社個別の受注高につきましては、倉庫・物流施設や住宅分野だけでなく、工場分野等の受注拡大にも注力した結果、76,981百万円（前連結会計年度比34.7%増）と高水準を維持しております。

【海外事業】

東南アジアを中心に南アジア・アフリカなどにおいて、海上土木工事などに取り組んでおります。東南アジアやアフリカの大型工事の売上高が大きく寄与したことなどから、当連結会計年度の売上高は46,538百万円（前連結会計年度比7.1%増）となりました。また、売上高の増加等により、セグメント利益（営業利益）は2,243百万円（前連結会計年度比214.4%増）となりました。

なお、当社個別の受注高につきましては、主に東南アジアの大型工事の受注により、68,892百万円（前連結会計年度比180.4%増）となりました。

【その他】

当連結会計年度の売上高は11,610百万円（前連結会計年度比16.0%増）、セグメント利益（営業利益）は1,307百万円（前連結会計年度比15.9%減）となりました。

当期中に受注いたしました主な工事は、以下のとおりであります。

発注者名	工事名
国土交通省関東地方整備局	令和4年度 横浜港本牧地区岸壁（-16m）（改良）他改良等工事
有限会社マルホ興産	中国木材(株)能代工場 製材棟他建設工事
小田急不動産株式会社	（仮称）岡崎市大平町物流施設計画新築工事
インドネシア共和国運輸省海運総局	パティンバン港開発事業(2期) パッケージ5:カーターミナル建設

当期中に完成いたしました主な工事は、以下のとおりであります。

発注者名	工事名
国土交通省関東地方整備局	横浜港新本牧地区岸壁 (-18m) (耐震) 築造工事
国土交通省近畿地方整備局	付替県道11号橋工事
株式会社和田コーポレーション	ロイヤルガーデン追手筋新築工事
CLKコールド・ストレージ社	クールジャパンCLK冷蔵倉庫拡張工事

当期における当社のセグメント別の受注高、売上高、繰越高は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

区 分	前期繰越高	当期受注高	当期売上高	次期繰越高
国内土木事業	125,033	149,622	102,293	172,362
国内建築事業	60,474	76,981	53,206	84,249
海外事業	114,960	68,892	46,538	137,314
計	300,468	295,496	202,037	393,926
そ の 他	—	—	1,198	—
合 計	300,468	295,496	203,236	393,926

2 資金調達の様況

当期の社債及び新株発行による資金調達はございません。

3 設備投資の様況

当期に実施いたしました設備投資の総額は34億円余であります。このうち主なものは建物の建設によるものであります。

4 事業の譲渡、吸収分割又は新設分割の様況

該当事項はございません。

5 他の会社の事業の譲受けの様況

該当事項はございません。

6 吸収合併又は吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の様況

該当事項はございません。

7 他の会社の株式その他の持分又は新株予約権等の取得又は処分の様況

該当事項はございません。

8 当社グループの財産及び損益の状況

(単位：百万円)

区 分	第130期 2019年度	第131期 2020年度	第132期 2021年度	第133期 (当期) 2022年度
売 上 高	190,278	189,712	219,814	213,569
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,007	6,859	7,385	4,835
1株当たり当期純利益	244円65銭	350円63銭	382円81銭	224円55銭
総 資 産	202,657	204,200	212,916	226,928
純 資 産	69,166	76,175	86,725	89,361
1株当たり純資産額	3,492円34銭	3,946円12銭	3,939円69銭	4,071円84銭

(注) 1. 当社は株式給付信託 (BBT、J-ESOP) を導入しており、当該信託口が保有する当社株式を、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日) 等を第132期の期首から適用しております。

当社の財産及び損益の状況

(単位：百万円)

区 分	第130期 2019年度	第131期 2020年度	第132期 2021年度	第133期 (当期) 2022年度
受 注 高	207,646	248,746	191,554	295,496
売 上 高	181,853	180,725	210,721	203,236
当 期 純 利 益	4,452	6,102	6,537	4,424
1株当たり当期純利益	213円86銭	307円79銭	338円87銭	205円49銭
総 資 産	188,903	192,150	202,981	215,608
純 資 産	61,924	66,036	75,252	76,732
1株当たり純資産額	3,103円22銭	3,453円94銭	3,446円20銭	3,525円26銭

(注) 1. 当社は株式給付信託 (BBT、J-ESOP) を導入しており、当該信託口が保有する当社株式を、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日) 等を第132期の期首から適用しております。

9 対処すべき課題

国内建設市場におきましては、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」などにより、政府建設投資が前年度とほぼ同水準となる見込みである一方、ウクライナ情勢等を背景とした資源や原材料価格の高騰により不透明な部分はあるものの、民間建設投資は増加が見込まれております。競合他社との受注競争の激化や、資材価格の高騰などによる経済への影響に注視が必要な状況が続いております。

こうした環境の下、当社グループは、長期ビジョン〈TOA2030〉の実現に向け、事業戦略と人材戦略の融合を基本方針とした「中期経営計画（2023～2025年度）」の初年度にあたり、各事業部門において下記重点施策を掲げ、事業目標の達成を目指してまいります。

この「中期経営計画」を着実に推進していくことで、事業拡大を推進する組織作りと人材成長の両立による企業価値を持続的に向上させるサイクルを構築し、さらに、部門間の連携強化により組織力の最大化、新規事業を含めた新たなビジネスモデルへの果敢な挑戦により、長期ビジョン「社会を支え、人と世界をつなぎ、未来を創る」の実現を達成し、社会的責任を果たしてまいります。

なお、部門間の連携を強化して組織力の最大化を図るために、2023年4月に国内土木及び国内建築部門にそれぞれ営業本部を設置し、また、新たな社会ニーズに迅速に対応すべく、技術研究開発センターに研究開発戦略室を設置することといたしました。

そのほか、社員それぞれの多様性を受け入れて個々の力を最大限に発揮する企業文化を醸成すべく、人事部に人材戦略課を設置し、ダイバーシティ&インクルージョンを実現してまいります。

さらに、2023年3月31日に株式会社東京証券取引所から要請がありました「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」に基づき、PBR（株価純資産倍率）を向上させるためのアクションプランを策定いたしました。着実に実行することで、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図ってまいります。

◆長期ビジョン〈TOA2030〉

社会を支え、人と世界をつなぎ、未来を創る

◆中期経営計画（2023～2025年度）

長期ビジョンを実現する事業戦略と人材戦略の融合

●各事業部門の重点施策（抜粋）

（経営企画本部）

- ・ IR活動の強化
- ・ ESG課題のキャッチアップ
- ・ デジタル化推進による生産性の向上と働き方改革の達成
- ・ 脱炭素社会の取組み加速
- ・ 高度なガバナンス体制とコンプライアンス精神による安全で高品質な社会資本の提供

(国内土木事業)

- ・保有作業船の戦略的活用の推進
- ・ECI対応や企画提案力の強化
- ・技術力継承・リスク対応力の強化
- ・防衛、米軍の事業量拡大
- ・国土強靱化への取り組みや老朽化した港湾インフラの維持・更新
- ・陸上工事の技術継承強化

(国内建築事業)

- ・得意分野（倉庫物流、住宅、福祉、PFI）強化と優良顧客の継続維持
- ・臨海部に強みを持つ土木の顧客情報を生かした工場等での能力発揮
- ・BIMをプラットフォームとして活用した生産性向上
- ・オフィス、医療福祉分野の取り組み強化
- ・地方都市部の再開発、PPP/PFI事業への土建協業
- ・カーボンニュートラルの推進に向けた検討実施

(海外事業)

- ・ODA案件以外にも拡大し、一層の多工種化を推進
- ・現地建設会社との協業
- ・ナショナルスタッフの活躍による組織力の一層の強化
- ・現地資本工事・建築工事拡大に向けた現地法人の設立
- ・PPP、設計施工、バイヤーズクレジット活用

(管理部門)

- ・資本政策の検討
- ・ダイバーシティ&インクルージョンの実現
- ・計画的なプロフェッショナル人材の確保と育成
- ・長期的な人材の活躍を後押し
- ・人的資本経営の質・量双方の課題解決に向けた諸施策

以上の施策を当社グループの役職員全員が共有し、着実に実行することで、経営課題の解決に取り組んでまいりますので、株主の皆様におかれましては、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【2020～2022年度の事業目標と実績】

	2020年度 (目標)		2020年度 (実績)	
	連 結	単 体	連 結	単 体
受 注 高	－	2,000億円	－	2,487億円
売 上 高	1,910億円	1,840億円	1,897億円	1,807億円
営 業 利 益	68億円	60億円	87億円	72億円
経 常 利 益	69億円	61億円	92億円	78億円
当 期 純 利 益	45億円	40億円	68億円	61億円

	2021年度 (目標)		2021年度 (実績)	
	連 結	単 体	連 結	単 体
受 注 高	－	1,910億円	－	1,915億円
売 上 高	2,230億円	2,150億円	2,198億円	2,107億円
営 業 利 益	90億円	84億円	98億円	86億円
経 常 利 益	87億円	81億円	101億円	89億円
当 期 純 利 益	60億円	56億円	73億円	65億円

	2022年度 (目標)		2022年度 (実績)	
	連 結	単 体	連 結	単 体
受 注 高	－	2,230億円	－	2,954億円
売 上 高	2,200億円	2,110億円	2,135億円	2,032億円
営 業 利 益	96億円	88億円	65億円	57億円
経 常 利 益	95億円	87億円	66億円	58億円
当 期 純 利 益	66億円	61億円	48億円	44億円

※連結の当期純利益につきましては、親会社株主に帰属する当期純利益を掲載しております。

【中期経営計画（2023～2025年度）における事業目標】

		2023年度 (目標)	2024年度 (目標)	2025年度 (目標)
		連 結	連 結	連 結
業 績 目 標	売 上 高	2,530億円	2,650億円	2,670億円
	営 業 利 益	97億円	112億円	120億円
	当 期 純 利 益	66億円	75億円	80億円

※連結の当期純利益につきましては、親会社株主に帰属する当期純利益を掲載しております。

10 主要な事業内容 (2023年3月31日現在)

当社は、建設業法により特定建設業者として国土交通大臣許可(特-29)第2429号を受け、土木、建築並びにこれらに関連する事業を行っております。

また、宅地建物取引業法により宅地建物取引業者として国土交通大臣免許(15)第475号を受け、不動産の売買、賃貸及びこれらに関連する事業を行っております。

11 主要な営業所 (2023年3月31日現在)

本	店	東京都新宿区西新宿三丁目7番1号	
支	店	北海道支店(札幌市)	東北支店(仙台市)
		東京支店(東京都中央区)	横浜支店(横浜市)
		千葉支店(千葉市)	北陸支店(新潟市)
		名古屋支店(名古屋市)	大阪支店(大阪市)
		中国支店(広島市)	四国支店(高松市)
		九州支店(福岡市)	東日本建築支店(東京都新宿区)
		西日本建築支店(大阪市)	国際事業本部(東京都新宿区)
研	究	技術研究開発センター(横浜市)	
海	外	シンガポール事務所(シンガポール)	ドバイ事務所(ドバイ)
事	業	インドネシア事務所(ジャカルタ)	クウェート事務所(クウェート)
所		ベトナム事務所(ハノイ/ホーチミン)	バングラデシュ事務所(ダッカ)
		フィリピン事務所(マニラ)	

12 従業員の状況 (2023年3月31日現在)

当社グループの従業員の状況

従業員数	前期末比増減
1,877名	29名増

(注) 従業員数は、出向者21名及び臨時使用人150名を除いております。

当社の従業員の状況

従業員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
1,595名	40名増	45.0歳	19.4年

(注) 従業員数は、出向者55名及び臨時使用人103名を除いております。

13 当社グループの主要な借入先及び借入額 (2023年3月31日現在)

借入先	借入金残高
株式会社みずほ銀行	11,691 百万円
株式会社横浜銀行	8,830
株式会社三菱UFJ銀行	4,947
みずほ信託銀行株式会社	4,776

14 重要な子会社の状況 (2023年3月31日現在)

会社名 (本店所在地)	資本金	当社の 議決権比率	主要な事業内容
株式会社東亜エージェンシー (東京都千代田区)	20 百万円	100 %	建設用資機材の販売・賃貸、 保険代理業
東亜機械工業株式会社 (下関市)	100	100	建設工事用機械等の製造販売・ 修理・賃貸
東亜ビルテック株式会社 (東京都千代田区)	40	100	ビルの管理・警備、建物及び設備の 調査・設計・修繕、雑貨の販売
東亜鉄工株式会社 (横浜市)	100	100	船舶及び建設工事用機械等の 製造販売・修理・賃貸
東亜海運産業株式会社 (東京都千代田区)	20	100	一般海運業、船舶売買仲介
信幸建設株式会社 (東京都千代田区)	50	100	建設業
東亜リアルエステート株式会社 (横浜市)	16	100	不動産の売買、仲介、管理 及び賃貸借
PFI 斎場運営株式会社 (札幌市)	350	46	火葬場の建設・維持管理・運営
PFI 一宮斎場株式会社 (一宮市)	30	67	火葬場の建設・維持管理・運営

(注) 盛岡第2合同庁舎整備運営株式会社は、当連結会計年度において清算手続きが終了したため、重要な子会社より除外しました。

Ⅱ 会社の株式に関する事項 (2023年3月31日現在)

1 株式数	発行可能株式総数	60,000,000株
	発行済株式の総数	22,494,629株
	(うち自己株式)	178,372株)

2 株主数	7,025名
-------	--------

3 大株主

(上位10名)

株主名	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	2,315 千株	10.38 %
株式会社シティインデックスイレブンス	1,903	8.53
野村 絢	1,156	5.18
太平洋セメント株式会社	1,068	4.79
東亜建設工業鶴株会	1,027	4.60
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	904	4.05
明治安田生命保険相互会社	770	3.45
東亜建設工業社員持株会	610	2.74
株式会社みずほ銀行	572	2.56
株式会社日本カストディ銀行 (信託E口)	549	2.46

(注) 持株比率は、自己株式178千株余を控除して計算しております。なお、自己株式には、株式給付信託 (BBT、J-ESOP)に係る信託口が保有する当社株式549千株余を含めておりません。

4 当事業年度中に職務執行の対価として会社役員に交付した株式の状況

当事業年度中に交付した株式報酬は退任した取締役 (監査等委員である取締役及び社外取締役を除く。) 3名に対し、職務執行の対価として、9,500株交付しております。

5 その他株式に関する重要な事項

(自己株式取得の状況)

- ・当期において、以下の内容で自己株式を取得しております。

取締役会決議に基づき取得した自己株式

普通株式 670,900株

取得価額の総額 1,848,413,600円

取得を必要とした理由 株主還元の充実と資本効率の向上を図るため

Ⅲ 会社の新株予約権等に関する事項

1 当社役員が保有している職務執行の対価として交付された新株予約権の状況

該当事項はございません。

2 当事業年度中に職務執行の対価として使用人等に対し交付した新株予約権の状況

該当事項はございません。

3 その他新株予約権等に関する重要な事項 (2023年3月31日現在)

2019年11月27日取締役会決議に基づき発行した2024年満期円貨建転換社債型新株予約権付社債について、本新株予約権付社債の要項に定めるクリーンアップ条項の条件が充足されたことを受け、2023年2月27日取締役会決議に基づき繰上償還しました。新株予約権の行使に伴い、当事業年度中に交付した自己株式は583,590株です。

Ⅳ 会社役員に関する事項 (2023年3月31日現在)

1 取締役の氏名等

会社における地位	氏名	担当及び重要な兼職の状況
代表取締役会長	秋山 優樹	
代表取締役社長	早川 毅	
代表取締役	黒須 茂敏	国際事業本部・安全環境品質本部・内部監査室・秘書室統括
取締役	廣瀬 善香	建築事業本部長 (働き方改革推進責任者)、技術研究開発センター統括
取締役	本多 將人	経営企画本部長 兼 経営企画部長
取締役	高橋 功	土木事業本部長 兼 工事統括、洋上風力推進部統括
取締役	中尾 剛	管理本部長
取締役	国谷 史朗	弁護士法人大江橋法律事務所パートナー 株式会社ネクソン監査等委員である社外取締役
取締役 (監査等委員)	小川 信行	
取締役 (監査等委員)	岡村 眞彦	
取締役 (監査等委員)	渡邊 光誠	東京富士法律事務所パートナー 株式会社NaITO監査等委員である社外取締役
取締役 (監査等委員)	半田 未知 (佐々野 未知)	コントロールソリューションズ株式会社代表取締役社長 長谷工レジデンシャルプライベート投資法人監督役員 株式会社オークネット監査等委員である社外取締役

- (注) 1. 取締役のうち国谷史朗、岡村眞彦、渡邊光誠及び半田未知の4氏は、社外取締役であります。
2. 当社は、監査等委員会の監査・監督機能を強化し、取締役 (監査等委員を除く) からの情報収集及び重要な社内会議における情報共有並びに内部監査部門と監査等委員会との十分な連携を可能にするため、小川信行氏を常勤の監査等委員に選定しております。
3. 当社は、取締役のうち国谷史朗、小川信行、岡村眞彦、渡邊光誠及び半田未知の5氏との間で会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の責任について、善意かつ重過失がないときは一定の限度を設ける契約を締結しており、当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が規定する最低責任限度額としております。
4. 取締役国谷史朗、岡村眞彦、渡邊光誠及び半田未知の4氏につきましては、東京証券取引所、札幌証券取引所に対し、独立役員として届け出ております。
5. 取締役 (監査等委員) のうち半田未知氏は、公認会計士及び税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。
6. 2023年4月1日付で、取締役のうち黒須茂敏、廣瀬善香、本多將人、高橋功及び中尾剛の5氏につきましては、次のとおり会社における地位及び担当の異動がありました。

氏名	新	旧
黒須茂敏	取締役	代表取締役 国際事業本部・安全環境品質本部・内部監査室・秘書室統括
廣瀬善香	代表取締役 建築部門 (建築営業本部・建築本部)・国際事業本部・安全環境品質本部・内部監査室統括	取締役 建築事業本部長 (働き方改革推進責任者)、技術研究開発センター統括
本多將人	取締役 経営企画本部長、技術研究開発センター統括	取締役 経営企画本部長 兼 経営企画部長
高橋 功	取締役 土木部門 (土木営業本部・土木本部)・洋上風力推進部統括、土木本部長	取締役 土木事業本部長 兼 工事統括、洋上風力推進部統括
中尾 剛	取締役 管理本部長、秘書室統括	取締役 管理本部長

2 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、当社及び子会社のすべての取締役、執行役員及び監査役を被保険者として、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しており、その保険料は当社が全額負担しております。

当該保険契約の内容は、被保険者が株主や第三者から損害賠償請求を提起された場合において、被保険者が負担することとなる損害賠償金及び争訟費用を補填するものであります。

なお、被保険者の職務の執行の適正性が損なわれないようにするための措置として、被保険者における故意又は犯罪行為等に起因して発生した損害賠償は、保険金支払の対象外としております。

3 取締役の報酬等

① 取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針に関する事項

(概要)

当社は、個人別の取締役の報酬等の決定に関する基本方針を、委員長を独立社外取締役とし、過半数を独立社外取締役で構成する指名報酬委員会における審議を経て、取締役会において決定しており、2022年5月13日開催の取締役会においては、取締役の報酬と業績との連動性をより高めるべく、基本方針の一部を改定いたしました。改定後の基本方針の概要は次のとおりであります。

当社の取締役の報酬は、金銭報酬及び業績に応じて付与ポイントが変動する株式報酬の非金銭報酬で構成されております(本項末尾の「取締役報酬の構成」の表をご参照ください)。ただし、監査等委員である取締役及び社外取締役の報酬は、独立性の確保から業績反映による報酬区分は設けず、定額の金銭報酬としております。

(金銭報酬)

2022年6月29日開催の第132回定時株主総会において、取締役の報酬等の額は年額300百万円以内(うち社外取締役分250百万円以内)とすることをご決議いただき、役位毎に定めた定額報酬及び毎年度の個々の業績評価に応じて決定する変動報酬からなる月額報酬に加え、年1回、定時株主総会后に前年度役位及び会社業績に基づき、短期インセンティブ報酬を支給することができる仕組みとしております。

月額報酬(定額報酬及び変動報酬)は、当社の業績や企業規模、世間水準及び従業員給与とのバランス等を考慮して決定しており、このうち変動報酬については、毎年度の個々の業績評価結果により、翌事業年度における役位毎の基準月額について、+10%、+5%、±0%、-5%、-10%の5段階の加減算を行い決定します。

個々の業績評価は、受注・利益の達成状況や財務指標などの定量的項目と業務の執行状況やコンプライアンスの状況などの定性的項目の中から各取締役の管掌・統括・担当及び業務分掌に応じて評価項目を定め、評価対象期間(毎年4月1日より翌年3月31日まで)の業績について、翌期の5月末に社長が評価を行ったうえで、指名報酬委員会へ諮問します。

短期インセンティブ報酬は、業績評価項目とする「受注高」、「連結営業利益」、「連結純利益」、「株価(TOPIX対比)」について事業年度ごとに目標値を設定し、目標達成度に基づいて予め定めた算式により0%~150%の範囲で支給額を決定します。

(非金銭報酬)

非金銭報酬である業績連動型株式報酬(株式給付信託)は、取締役の報酬と業績及び株式価値との連動性をより明確にし、取締役が株価上昇によるメリットのみならず、株価下落のリスクまでも株主の皆様と共有することで、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的として、2019年6月27日開催の第129回定時株主総会においてご決議をいただき導入いたしました。その後、2022年6月29日開催の第132回定時株主総会においては、取締役等に付与される1事業年度当たりのポイント数の上限を引き上げることで、中長期インセンティブである本制度の報酬割合を上げ、報酬と業績及び株式価値との連動性を強化する改定についてご決議をいただいております。

取締役には、各事業年度に関して、役員株式給付規程に基づき、役位、業績達成度を勘案して定まるポイントを付与し、原則として、役員退任時に、1ポイント当たり当社普通株式1株に換算し、株式等を給付する

仕組みとしておりますが、付与される1事業年度当たりのポイント数の上限を60,800ポイント（うち取締役分21,800ポイント）と定め、役位別の基準ポイントは、会長・社長3,500ポイント、副社長1,800ポイント、専務1,600ポイント、常務1,200ポイント、執行役員900ポイントとしております。

（取締役報酬の構成）

金 銭 報 酬		非金銭報酬	
月額報酬 約80%		業績連動報酬 約20%	
定額報酬 約30%	変動報酬 約50%	短期インセンティブ	業績連動型株式
役位毎に定める	毎年度の個々の業績評価に応じて役位毎の基準月額に5段階の加減算を行う	報酬 約6%	報酬 約14%

※金銭報酬、非金銭報酬の割合は役位、担当及び業務分掌により多少変動します。

※業績連動型株式報酬の報酬総額に占める割合は凡そ17～9%の範囲で、高い成果、責任が求められる役位上位者ほど高い比率となり、代表取締役社長の場合は約17%となります。

（決定手続）

取締役の報酬の決定にあたっては、上記の基本方針に沿って公平性、透明性、客観性を重視し、合理的な制度運用が担保されるよう、指名報酬委員会において審議のうえ、その答申に基づき、取締役会において個人別の報酬を決定しております。また、変動報酬の評価項目に係る目標値の設定についても、新事業年度毎に指名報酬委員会へ諮問し、その答申を受け、取締役会において決定しております。当事業年度に係る取締役（監査等委員であるものを除く）の個人別の報酬等の内容は、上記の手続に従って決定したものであり、また、取締役会としてもその内容が上記の方針に整合していることを確認しており、上記の方針に沿っているものと判断しております。

ただし、監査等委員である取締役の報酬は、監査等委員の協議において決定しております。

② 取締役の報酬等についての株主総会の決議に関する事項

2022年6月29日開催の第132回定時株主総会において、監査等委員であるものを除く取締役（社外取締役を除く）に対して年1回、短期インセンティブ報酬（金銭）を支給することができるよう、取締役の報酬等の額の定めを月額25百万円以内から年額換算した年額300百万円以内（うち社外取締役分25百万円以内）（当該定時株主総会終結時点の当該取締役の員数は8名、うち社外取締役は1名）とすることに改め、併せて監査等委員である取締役の報酬等の額についても、月額8百万円以内から年額換算した年額96百万円以内（当該定時株主総会終結時点の当該取締役の員数は4名）と改めることをご決議いただいております。

また、上記金銭報酬とは別枠で、2019年6月27日開催の第129回定時株主総会においてご決議いただき、取締役（監査等委員である取締役、及びそれ以外の取締役のうち社外取締役であるものを除く。当該定時株主総会終結時点の当該取締役の員数は7名）及び取締役を兼務しない執行役員を対象として導入した業績連動型株式報酬（株式給付信託）については、2022年6月29日開催の第132回定時株主総会において、取締役等に付与される1事業年度当たりのポイント数の上限を33,400ポイントから60,800ポイント（うち取締役分は12,200ポイントから21,800ポイント）に引き上げることをご決議いただいております。

- ③ 取締役の報酬等の総額等
当事業年度の報酬等の総額は次の図で示したとおりです。

役員区分	報酬等の 総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (人)
		金銭報酬			非金銭報酬	
		定額報酬	変動報酬	短期インセンティブ報酬	業績連動型株式報酬	
取締役(監査等委員を除く) (うち社外取締役)	222 (6)	81 (6)	117 (-)	9 (-)	13 (-)	12 (1)
取締役(監査等委員) (うち社外取締役)	42 (25)	42 (25)	- (-)	- (-)	- (-)	4 (3)

※業績連動型株式報酬は、当事業年度中の役員株式給付引当金繰入額であります。

※短期インセンティブ報酬は、当事業年度中の役員賞与引当金繰入額であります。

- ④ 業績連動型株式報酬（非金銭報酬）に関する事項

取締役の報酬と業績及び株式価値との連動性をより明確にし、取締役が株価上昇によるメリットのみならず、株価下落のリスクまでも株主の皆様と共有することで、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的としており、業績との連動性の高い評価項目（受注高、連結営業利益、連結純利益、株価（TOPIX対比））を業績指標として選定しています。業績連動係数は、標準を100%として、上記評価項目の目標達成率に基づき、予め定めた算式により0%～150%の範囲で決定します。

当事業年度における評価項目の主な指標の目標は、個別受注高223,000百万円、連結営業利益9,600百万円、連結純利益6,600百万円であり、実績は、個別受注高295,496百万円、連結営業利益6,555百万円、連結純利益4,835百万円となりました。また、当事業年度における当社株価の毎月末日終値平均は前年度比で1.03倍、TOPIX終値対比で1.03倍となりました。

その結果、当事業年度について、取締役に付与されるポイント総数は7,975ポイント（当社普通株式7,975株相当）となる予定です。

※ご参考として、1ポイント当たり当社普通株式1株に換算し、2023年5月12日の終値3,015円を適用した場合、株式取得に係る必要資金は取締役分として約24百万円となります。

4 社外役員に関する事項

① 重要な兼職先と当社との関係

取締役国谷史朗氏は、弁護士法人大江橋法律事務所パートナーであります。同法律事務所と当社との間には特別の関係はありません。

また、同氏は、株式会社ネフソン監査等委員である社外取締役であります。同社と当社との間には特別の関係はありません。

取締役（監査等委員）渡邊光誠氏は、東京富士法律事務所パートナーであります。同法律事務所と当社との間には特別の関係はありません。

また、同氏は、株式会社NaITO監査等委員である社外取締役であります。同社と当社との間には特別の関係はありません。

取締役（監査等委員）半田（佐々野）未知氏は、コントロールソリューションズ株式会社代表取締役社長であります。同社と当社との間には特別の関係はありません。

また、同氏は、長谷工レジデンシャルプライベート投資法人監督役員であります。同社と当社との間には特別の関係はありません。

また、同氏は、株式会社オークネット監査等委員である社外取締役であります。同社と当社との間には特別の関係はありません。

② 主な活動状況

取締役国谷史朗氏は、事業年度中開催の取締役会に18回中18回出席し、他社の役員並びに経営者としての経験と十分な知見を基に必要な発言を行っております。

取締役（監査等委員）岡村眞彦氏は、事業年度中開催の取締役会に18回中18回出席し、また、事業年度中開催の監査等委員会に17回中17回出席し、他社の役員並びに経営者としての経験と十分な知見を基に必要な発言を行っております。

取締役（監査等委員）渡邊光誠氏は、事業年度中開催の取締役会に18回中14回出席し、また、事業年度中開催の監査等委員会に17回中13回出席し、法曹としての経験と十分な知見を基に必要な発言を行っております。

取締役（監査等委員）半田未知氏は、事業年度中開催の取締役会に18回中18回出席し、また、事業年度中開催の監査等委員会に17回中17回出席し、公認会計士、税理士並びに経営者としての経験と十分な知見を基に必要な発言を行っております。

③ 社外取締役が果たすことが期待される役割に関して行った職務の概要

取締役国谷史朗氏は、法曹としての企業法務や国際法務に関する豊富な経験と高い知見を有し、長年に亘り他社の社外監査役及び社外取締役を務めております。当社の取締役会においては、社外取締役として、企業経営に関するグローバル且つ高度な観点から積極的にご発言をいただくことで、経営における重要事項の決定や業務執行に対する監督の役割を果たすとともに、当社の取締役会の実効性の向上にも寄与していただきました。

取締役（監査等委員）岡村眞彦氏は、大手商事会社の要職を歴任され、役員並びに経営者としての豊富な経験と十分な知見を有しております。このような観点から、当社の社外取締役として取締役会において積極的にご発言をいただくことで、経営における重要事項の決定や業務執行の監督等の職務を適切に遂行いただき、当社の取締役会の実効性の向上に寄与していただきました。また、指名報酬委員会の委員長として委員会に出席し、積極的に意見を述べていただきました。

取締役（監査等委員）渡邊光誠氏は、法曹としての豊富な経験と高い知見を有し、長年に亘り他社の社外監査役及び監査等委員である社外取締役を務めております。このような観点から、当社の社外取締役として取締役会において積極的にご発言をいただくことで、経営における重要事項の決定や業務執行の監督等の職務を適切に遂行いただき、当社の取締役会の実効性の向上に寄与していただきました。また、指名報酬委員会の委員として委員会に出席し、積極的に意見を述べていただきました。

取締役（監査等委員）半田未知氏は、公認会計士及び税理士としての豊富な経験と高い知見を有し、また、内部統制、リスクマネジメント等のコンサルティング会社の経営者を務め、経営コンサルタントとして内部統制構築支援に携わっております。このような観点から、当社の社外取締役として取締役会において積極的にご発言をいただくことで、経営における重要事項の決定や業務執行の監督等の職務を適切に遂行いただき、当社の取締役会の実効性の向上に寄与していただきました。また、指名報酬委員会の委員として委員会に出席し、積極的に意見を述べていただきました。

5 執行役員の名等 (2023年3月31日現在)

会社における地位	氏名	担当
執行役員社長	早川 毅	
執行役員副社長	黒須 茂敏	国際事業本部・安全環境品質本部・内部監査室・秘書室統括
執行役員専務	鈴木 清剛	土木事業本部営業統括
執行役員専務	小池 徹	建築事業本部担当
執行役員専務	廣瀬 善香	建築事業本部長 (働き方改革推進責任者)、技術研究開発センター統括
執行役員専務	本多 將人	経営企画本部長 兼 経営企画部長
執行役員専務	高橋 功	土木事業本部長 兼 工事統括、洋上風力推進部統括
執行役員常務	馬場 隆之	安全環境品質本部長
執行役員常務	白川 裕康	東日本建築支店長
執行役員常務	高瀬 和彦	洋上風力推進部長
執行役員常務	馬越 成之	横浜支店長
執行役員常務	井山 聡	土木事業本部担当
執行役員常務	丸山 隆英	土木事業本部担当
執行役員常務	石山 明久	土木事業本部担当
執行役員	後藤 良平	土木事業本部技術担当 (働き方改革推進責任者)
執行役員	山下 新一	九州支店長
執行役員	金子 功	名古屋支店長
執行役員	金田 聡	土木事業本部第一営業部長
執行役員	竹市 卓矢	東北支店長
執行役員	川森 聡	経営企画本部副本部長 兼 ESG推進部長
執行役員	木村 克尚	国際事業本部長
執行役員	中道 正人	技術研究開発センター長
執行役員	麥田 和義	西日本建築支店長
執行役員	木下 正暢	千葉支店長
執行役員	瀧野 浩	九州支店南九州総合事務所長
執行役員	北林 勇武	東日本建築支店副支店長
執行役員	市毛 史朗	土木事業本部第二営業部長 兼 電力営業部長
執行役員	御沓 英剛	東京支店長
執行役員	岡 禎之	中国支店長
執行役員	中尾 剛	管理本部長

(注) 2023年4月1日付けで、執行役員のお社における地位及び担当の異動があり、次の体制となりました。

会社における地位	氏名	担当
執行役員社長	早川 毅	
執行役員副社長	鈴木 清剛	土木営業本部長
執行役員副社長	廣瀬 善香	建築部門（建築営業本部・建築本部）・国際事業本部・安全環境品質本部・内部監査室統括
執行役員専務	小池 徹	建築営業本部長
執行役員専務	本多 將人	経営企画本部長、技術研究開発センター統括
執行役員専務	高橋 功	土木部門（土木営業本部・土木本部）・洋上風力推進部統括、土木本部長
執行役員専務	馬場 隆之	安全環境品質本部長
執行役員専務	丸山 隆英	土木部門担当
執行役員常務	白川 裕康	建築本部長
執行役員常務	高瀬 和彦	洋上風力推進部長
執行役員常務	馬越 成之	横浜支店長
執行役員常務	井山 聡	土木部門担当
執行役員常務	石山 明久	土木部門担当
執行役員常務	金田 聡	土木営業本部第一営業部長
執行役員常務	木村 克尚	国際事業本部長
執行役員常務	木下 正暢	土木本部工事統括
執行役員	山下 新一	九州支店長
執行役員	竹市 卓矢	東北支店長
執行役員	川森 聡	経営企画本部副本部長 兼 ESG推進部長
執行役員	中道 正人	技術研究開発センター長
執行役員	麥田 和義	西日本建築支店長
執行役員	瀧野 浩	九州支店南九州総合事務所長
執行役員	北林 勇武	東日本建築支店長
執行役員	市毛 史朗	土木営業本部第二営業部長 兼 電力営業部長
執行役員	御沓 英剛	東京支店長
執行役員	岡 禎之	中国支店長
執行役員	中尾 剛	管理本部長、秘書室統括
執行役員	福地 康幸	建築本部設計設備統括部長 兼 第一設計部長（働き方改革推進責任者）
執行役員	作井 孝光	大阪支店長
執行役員	広瀬 祐子	管理本部副本部長

V 会計監査人の状況

1 会計監査人の名称

EY新日本有限責任監査法人

2 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

① 公認会計士法第2条第1項の業務に係る報酬等の額

EY新日本有限責任監査法人 64百万円

当社とEY新日本有限責任監査法人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬の額を区分しておらず、実質的にも区分できないため、上記の金額にはこれらの合計額を記載しております。

② 当社及び当社の子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計

EY新日本有限責任監査法人 64百万円

③ 会計監査人の報酬等に監査等委員会が同意した理由

監査等委員会は、会計監査人の職務執行状況、監査方法及び監査内容並びに報酬見積りの算出根拠等を確認し、総合的に検討した結果、会計監査人の報酬等につき、会社法第399条第1項及び第3項の同意を行っています。

3 非監査業務の内容

該当事項はございません。

4 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

会計監査人が、会社法第340条第1項各号に定める項目に該当する場合は、監査等委員会は、監査等委員全員の同意により会計監査人を解任いたします。

また、監査等委員会は、会計監査人の職務遂行状況、監査体制、独立性及び専門性などが適切であるかについて総合的に評価し、会計監査人の再任が不適当と判断した場合は、会計監査人の解任又は不再任に関する議案を株主総会に提案いたします。

VI 業務の適正を確保するための体制（内部統制システム構築の基本方針）及び運用状況の概要

当社は、会社法、会社法施行規則及び金融商品取引法に基づき、以下のとおり、当社の業務の適正性を確保するための体制（以下「内部統制システム」という。）を整備し運用しております。過去に発生した不祥事以来、役職員全員の意識改革とコンプライアンスの更なる徹底に努め、より実効性のある内部統制システムの構築及び運用に向けた取り組みを行っております。

1 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ① 企業として社会的責任を果たすため、役職員が法令・定款及び企業倫理を遵守した職務執行を行うよう企業行動規範を定めております。企業行動規範は社内イントラネット上に掲載しており、常に閲覧できるほか、公式サイト上においても公開しております。
- ② 社長が全役職員に企業行動規範の精神を繰返し伝えることにより、法令等の遵守があらゆる企業活動の前提であることを周知・徹底しております。
- ③ 全社横断的に効果的な内部統制を構築するため、社長を委員長とするESG委員会を設置し、当社グループのコンプライアンス、内部統制及びリスク管理の実効性に関する行動計画を策定し、これを実施しております。
- ④ オンラインを活用したコンプライアンス研修をグループ役職員を含む全社で一斉に実施しているほか、e-learningを利用し、役職員への業務執行に関連する各種法令の遵守や内部統制及びリスク管理教育を実施しております。

2 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- ① 取締役の職務執行に係る情報（取締役会議事録、稟議書）を文書又は電磁的媒体で記録し、文書管理規程に従い保存しております。
- ② 取締役は、取締役の職務執行に係る情報をいつでも閲覧することができる体制を構築しております。

3 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ① 職務執行に係るリスク管理については、それぞれの担当部門が定めた管理規程等に従い当該部門が行っております。また、それぞれの担当部門が自発的に担当職務に関連するテーマを抽出し、e-learningによる教育を実施しております。
- ② 組織横断的なリスク状況の監視並びに全社的対応については、リスク管理規程に基づきESG委員会が対応し、必要に応じてその状況や対応内容を取締役会に報告する体制を構築しております。

4 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ① 中期経営計画・年度計画を定め、当社として達成すべき目標及び担当取締役の業績目標を明確にしております。
- ② 経営企画部は、中期経営計画・年度計画における各部門の業務執行状況を検証しこれをフィードバックするとともに、各部門の改善策の実施をフォローする体制をとるものとしております。
- ③ IR担当取締役を任命し、企業情報等に関し適時の開示を適切に実施しております。
- ④ 取締役会の決議によって重要な業務執行の一部を取締役社長に権限委任し、毎週1回開催する経営会議で審議・決定することにより、経営判断の迅速化の向上に努めております。
- ⑤ 執行役員制度により、意思決定機能と業務執行機能を分離し、意思決定プロセスの簡素化及び意思決定の迅速化を図っております。
- ⑥ 当事業年度は取締役会を18回開催しております。また、アンケート形式で取締役会の実効性についての自己評価を行っており、認識された課題や取締役会全体の機能向上に向けた今後の取り組み等について、建設的な議論を行っております。

5 当該株式会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- ① 当社の定める企業行動規範をグループ各社に周知するとともに、当社ESG委員会がグループ全体の役職員と一体となり遵法意識の向上を図っております。
当社で実施するオンラインを活用したコンプライアンス研修は、グループ役職員と合同で実施しております。
- ② 当社の定めるグループ会社運営基準に従い、グループ各社における経営上重要な事項については当社取締役会の付議事項とし、その他の事項については、当社経営企画部の審査を経るものとしております。
- ③ 当社内部監査室は、グループ各社に対する内部監査を実施しております。
- ④ グループ各社は、経営目標を設定し、関係会社社長会において当期見通し等について、当社経営陣と協議を行っております。当社経営企画部は、グループ各社の経営目標の達成状況等を定期的に検証し、その結果を当社取締役会に報告するとともに、グループ各社にフィードバックを行っております。
- ⑤ 当社グループは、社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体との関係を一切遮断するため、不当要求等については、毅然かつ組織的に対応することにしております。

6 監査等委員会がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制及び当該使用人の取締役からの独立性に関する事項

- ① 当社の業務を十分検証できるだけの経験を有する社員を補助者として配置し、監査等委員会の事務局を併せて担当するものとしております。
- ② 監査等委員会は、補助者に監査業務に必要な事項を命ずることができる体制をとっております。前記の場合、補助者はその命令に関して監査等委員でない取締役等の指揮・命令を受けない体制をとっております。
- ③ 補助者の人事異動、人事評価及び懲戒に関しては、監査等委員会の同意を得るものとしております。

7 取締役及び使用人が監査等委員会に報告をするための体制、その他の監査等委員会への報告に関する体制及びその他監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- ① 役職員は、会社に重大な損失を与える事項の発生又は発生する恐れがあるとき、及び役職員による違法又は不正な行為を発見したとき、並びにその他会社に著しい信用失墜を及ぼす恐れのある事象が生じたときは速やかに監査等委員会に報告するものとしております。
- ② 前号の報告をした者に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止することとしております。
- ③ 役職員は、監査等委員会の監査業務に対しその重要性和有用性を認識・理解し、監査が実効的に行われるよう協力する体制をとっております。
- ④ 監査等委員会は、代表取締役社長並びに会計監査人との定期的な意見交換会を開催するとともに、内部監査室との連携を図り、適切な意思疎通及び効果的な監査業務の遂行を図ることとしております。
- ⑤ 監査等委員会は、監査上必要があるときは、取締役及び重要な役職員に対し個別ヒヤリングの機会を設けることができる体制をとっております。
- ⑥ 監査等委員が職務の執行について生ずる費用の前払い又は償還の手続きを請求したときは、職務の執行に必要でないと認められた場合を除き、会社がその費用を負担することとしております。

8 財務計算に関する報告及び情報の適正性を確保するための体制

- ① 当社グループの財務報告の適正性を確保するため、財務報告に係る内部統制基本方針を定めて維持・運用する体制をとっております。
- ② 当社グループの財務報告に係る内部統制の有効性を継続的に評価し、内部統制について必要な是正・改善を行うことにより業務品質の向上を図ることとしております。

Ⅶ 会社の支配に関する基本方針

1 基本方針の内容

当社は、公開会社として株式を上場し、株主、投資家の皆様による株式の自由な取引が認められている以上、当社株式に対する大規模買付提案又はこれに類似する行為があった場合において、これに応じて当社株式の売却を行うか否かの判断は、最終的には株主の皆様に基づき行われるものであると考えております。

当社株式の売却を行うか否か、すなわち大規模買付提案等に応じるか否かの判断を株主の皆様適切に行っていただくためには、大規模買付者側から買付の条件や買収した後の経営方針、事業計画等に関する十分な情報提供がなされる必要があると考えます。また、当社は、その大規模買付提案に対する当社取締役会の評価や意見、大規模買付提案に対する当社取締役会による代替案等も株主の皆様提供しなければならないと考えます。株主の皆様には、それらを総合的に勘案したうえでご判断をいただく必要があると考えます。

当社の財務及び事業の方針を決定する者は、当社の経営理念を理解し、当社を支えるステークホルダーとの信頼関係を十分に構築することができ、当社の企業価値、株主共同の利益を中長期的に向上させることのできる意思と能力を備えている必要があると考えます。

したがって、大規模買付提案にあたって当社や当社の株主に対し、提案内容に関する情報や意見、評価、代替案作成に必要な時間を与えない大規模買付者、買付の目的及び買付後の経営方針等に鑑み、当社の企業価値・株主共同の利益を損なうことが明白である大規模買付提案を行う買付者、買付に応じることを株主に強要するような仕組みを有する提案等を行う大規模買付者は、当社の財務及び事業の方針を支配する者としては適切ではないと考えています。

このような大規模買付提案又は大規模買付行為等があった場合には、当社は、法令及び定款によって許容される限度において、企業価値や株主共同の利益を確保するために必要な措置を講じることを基本方針とします。

2 基本方針の実現に資する取り組み

当社は、より多くの投資家の皆様に末永く継続して投資いただくため、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益を向上させる取り組みとして、「高い技術をもって、社業の発展を図り、健全な経営により社会的責任を果たす」という企業理念を掲げ、その実現のための2030年を見据えた長期ビジョン、そして具体的な実行計画となる3か年中期経営計画を策定しております。

長期ビジョン「社会を支え、人と世界をつなぎ、未来を創る」におきましては、国内外のインフラ建設を通じた産業基盤の構築、環境負荷低減等の解決に資することによる持続可能な社会の実現、そして社会や企業の礎となる人材への投資・育成を強化することを基本方針としております。

2023年度から始まる中期経営計画においては、長期ビジョンの実現に向け、事業拡大を推進する組織作りと人材成長（育成）の両立を図ってまいります。また、これらと並行して高度なガバナンス体制とコンプライアンス精神を根底に置き、環境・人権・パートナーシップそれぞれの価値を重視し、社員を含むすべてのステークホルダーの幸福度を高めるために、ESG経営をさらに深化させ、社会資本整備を通じて社会に貢献してまいります。

3 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止する取り組み

当社は、企業価値及び株主共同の利益を害する恐れのある当社株式に対する大規模買付提案又はこれに類似する行為があった場合には、株主の皆様が適切に判断を行えるよう、大規模買付者に対し必要かつ十分な情報開示を求め、あわせて取締役会の評価や意見、代替案等を開示し、株主の皆様が適時適切な情報を提供するように努めるとともに、株主の皆様が検討するための時間の確保に努めてまいります。

4 基本方針に沿い、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に合致し、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないことについて

当社の**2**「基本方針の実現に資する取り組み」は、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を向上させる取り組みとして、当社の経営理念を実現させるため実践しているものであります。

また、**3**「基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止する取り組み」は、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を向上させる取り組みとして必要に応じて法令、定款の許容する範囲において適切な処置を講ずるものであり、当社の役員の地位の維持を目的とするものではありません。

(注) 本事業報告中に記載の金額及び株式数は、表示単位未満の端数を切り捨てております。

連結貸借対照表

(2023年3月31日現在)

(単位：百万円)

科目	金額
(資産の部)	
流動資産	175,573
現金預金	28,289
受取手形・完成工事未収入金等	127,884
未成工事支出金等	4,427
販売用不動産	1,315
立替金	7,935
その他	5,731
貸倒引当金	△9
固定資産	51,355
有形固定資産	35,602
建物・構築物	5,386
機械、運搬具及び工具器具備品	3,369
土地	18,767
リース資産	1,396
建設仮勘定	6,682
無形固定資産	808
投資その他の資産	14,944
投資有価証券	10,456
長期貸付金	101
退職給付に係る資産	1,404
繰延税金資産	2,002
その他	1,510
貸倒引当金	△530
資産合計	226,928

科目	金額
(負債の部)	
流動負債	122,249
支払手形・工事未払金等	37,250
電子記録債務	7,616
短期借入金	30,708
コマース・ペーパー	6,000
未払法人税等	1,620
未成工事受入金	10,650
預り金	20,917
完成工事補償引当金	894
工事損失引当金	1,321
役員賞与引当金	28
その他	5,242
固定負債	15,317
長期借入金	10,335
再評価に係る繰延税金負債	2,232
退職給付に係る負債	596
役員株式給付引当金	111
その他	2,041
負債合計	137,567
(純資産の部)	
株主資本	82,319
資本金	18,976
資本剰余金	18,965
利益剰余金	46,602
自己株式	△2,225
その他の包括利益累計額	6,310
その他有価証券評価差額金	2,048
繰延ヘッジ損益	△3
土地再評価差額金	3,460
退職給付に係る調整累計額	804
非支配株主持分	731
純資産合計	89,361
負債純資産合計	226,928

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(2022年4月1日から
2023年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目	金 額	
売上高		213,569
売上原価		195,539
売上総利益		18,030
販売費及び一般管理費		11,475
営業利益		6,555
営業外収益		
受取利息及び配当	353	
為替差益	134	
その他	81	569
営業外費用		
支払利息	303	
保証料	138	
支払手数料	59	
その他	9	510
特別利益		6,614
固定資産売却益	36	
投資有価証券売却益	489	
補助金の収入	14	
その他	0	541
特別損失		
固定資産売却損	0	
固定資産除却損	5	
固定資産圧縮損	14	
関係会社株式評価損	10	
減損	3	
その他	3	36
税金等調整前当期純利益		7,119
法人税、住民税及び事業税	1,537	
法人税等調整額	670	2,207
当期純利益		4,912
非支配株主に帰属する当期純利益		77
親会社株主に帰属する当期純利益		4,835

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書

(2022年4月1日から
2023年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当 期 首 残 高	18,976	19,042	43,543	△1,524	80,037
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当			△1,994		△1,994
親会社株主に帰属する当期純利益			4,835		4,835
自 己 株 式 の 取 得				△3,042	△3,042
自 己 株 式 の 処 分		152		1,063	1,216
土地再評価差額金の取崩			199		199
転換社債型新株予約権付社債の転換		△228		1,278	1,050
連 結 範 囲 の 変 動		△1	19		18
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)					
当 期 変 動 額 合 計	-	△76	3,059	△700	2,281
当 期 末 残 高	18,976	18,965	46,602	△2,225	82,319

	その他の包括利益累計額					非支配 株主持分	純資産 合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当 期 首 残 高	2,235	5	3,659	89	5,990	697	86,725
当 期 変 動 額							
剰 余 金 の 配 当							△1,994
親会社株主に帰属する当期純利益							4,835
自 己 株 式 の 取 得							△3,042
自 己 株 式 の 処 分							1,216
土地再評価差額金の取崩							199
転換社債型新株予約権付社債の転換							1,050
連 結 範 囲 の 変 動							18
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	△186	△9	△199	714	319	34	353
当 期 変 動 額 合 計	△186	△9	△199	714	319	34	2,635
当 期 末 残 高	2,048	△3	3,460	804	6,310	731	89,361

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表

(2023年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額
(資産の部)	
流 動 資 産	169,046
現 金 預 金	26,148
受 取 手 形	1,014
完 成 工 事 未 収 入 金	120,490
兼 業 事 業 未 収 入 金	2,652
未 成 工 事 支 出 金	2,781
兼 業 事 業 支 出 金	61
販 売 用 不 動 産	1,270
立 替 金	7,904
そ の 他 金	6,725
貸 倒 引 当 金	△3
固 定 資 産	46,561
有 形 固 定 資 産	29,234
建 物 ・ 構 築 物	3,175
機 械 ・ 運 搬 具	2,615
工 具 器 具 ・ 備 品	362
土 地	15,229
リ ー ス 資 産	1,421
建 設 仮 勘 定	6,429
無 形 固 定 資 産	767
投 資 そ の 他 の 資 産	16,559
投 資 有 価 証 券	9,655
関 係 会 社 株 式	2,366
関 係 会 社 長 期 貸 付 金	1,357
前 払 年 金 費 用	244
繰 延 税 金 資 産	1,928
そ の 他	1,537
貸 倒 引 当 金	△531
資 産 合 計	215,608

科 目	金 額
(負債の部)	
流 動 負 債	124,970
支 払 手 形	1,674
電 子 記 録 債 務	8,563
工 事 未 払 金	31,538
短 期 借 入 金	30,602
コ ー マ ー シ ャ ル ・ ペ ー パ ー	6,000
リ ー ス 債 務	514
未 払 法 人 税 等	1,494
未 成 工 事 受 入 金	10,313
兼 業 事 業 受 入 金	310
預 計 補 償 引 当 金	24,917
成 工 事 損 失 引 当 金	894
完 工 事 員 賞 与 引 当 金	1,321
工 役 所 の 他	28
そ の 他	6,797
固 定 負 債	13,905
長 期 借 入 金	10,321
リ ー ス 債 務	1,050
再 評 価 に 係 る 繰 延 税 金 負 債	2,232
役 員 株 式 給 付 引 当 金	111
そ の 他	189
負 債 合 計	138,876
(純資産の部)	
株 主 資 本	71,352
資 本 金	18,976
資 本 剰 余 金	19,018
資 本 準 備 金	4,744
そ の 他 資 本 剰 余 金	14,274
利 益 剰 余 金	35,098
そ の 他 利 益 剰 余 金	35,098
別 途 積 立 金	14,000
繰 越 利 益 剰 余 金	21,098
自 己 株 式	△1,741
評 価 ・ 換 算 差 額 等	5,379
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	1,922
繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	△3
土 地 再 評 価 差 額 金	3,460
純 資 産 合 計	76,732
負 債 純 資 産 合 計	215,608

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(2022年4月 1日から
2023年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目		金 額	
売	上	198,496	
完	成	3,541	
開	事	1,198	203,236
不	業		
上	産		
売	等	183,583	
完	価	2,712	
開	事	622	186,918
不	業		
上	等		
売	売	14,913	
完	上	828	
開	原	576	16,318
不	原		
上	価		
販	益		10,545
売	益		5,772
費	益		
及	配	431	
び	当	134	
一	差	36	601
般	の		
管	用		
理	利	310	
費	数	138	
業	の	59	
受	証	8	516
為	手		
そ	の		
業	利		5,857
支	常		
保	利	27	
支	資	478	
そ	有	14	
経	価	0	521
別	の		
固	失		
投	産		
補	産		
そ	産		
別	産		
固	式		
固	評		
関	価		
減	損		
税	損		
法	損		
法	引		
当	前		
	住		
	民		
	等		
	純		
	利	1,281	6,347
	業	640	1,922
	額		4,424

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(2022年4月1日から
2023年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本								株主資本 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	
		資本 準備金	その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計	その他利益剰余金 別途 積立金	繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計		
当 期 首 残 高	18,976	4,744	14,349	19,094	14,000	18,448	32,448	△1,040	69,478
当 期 変 動 額									
剰余金の配当						△1,973	△1,973		△1,973
当期純利益						4,424	4,424		4,424
自己株式の取得								△3,042	△3,042
自己株式の処分			152	152				1,063	1,216
土地再評価差額金の取崩						199	199		199
転換社債型新株 予約権付社債の転換 株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)			△228	△228				1,278	1,050
当期変動額合計	-	-	△75	△75	-	2,650	2,650	△700	1,874
当 期 末 残 高	18,976	4,744	14,274	19,018	14,000	21,098	35,098	△1,741	71,352
	評価・換算差額等					純資産合計			
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計					
当 期 首 残 高	2,108	5	3,659	5,774	75,252				
当 期 変 動 額									
剰余金の配当					△1,973				
当期純利益					4,424				
自己株式の取得					△3,042				
自己株式の処分					1,216				
土地再評価差額金の取崩					199				
転換社債型新株 予約権付社債の転換 株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	△185	△9	△199	△394	△394				
当期変動額合計	△185	△9	△199	△394	1,480				
当 期 末 残 高	1,922	△3	3,460	5,379	76,732				

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結計算書類に係る会計監査人の監査報告書

独立監査人の監査報告書

2023年5月19日

東亜建設工業株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 原 秀 敬
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 結 城 洋 治
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、東亜建設工業株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、東亜建設工業株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結計算書類に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

独立監査人の監査報告書

2023年5月19日

東亜建設工業株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 原 秀 敬
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 結 城 洋 治
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、東亜建設工業株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの第133期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

計算書類等に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監査等委員会の監査報告書

監査報告書

当監査等委員会は、2022年4月1日から2023年3月31日までの第133期事業年度における取締役の職務の執行について監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

監査等委員会は、会社法第399条の13第1項第1号ロ及びハに掲げる事項に関する取締役会決議の内容並びに当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明するとともに、以下の方法で監査を実施しました。

- ① 監査等委員会が定めた監査等委員会監査基準に準拠し、監査計画等に従い、会社の内部監査部門と連携の上、重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行に関する事項の報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査しました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社に対し事業の報告を求め、その業務及び財産の状況を調査しました。
- ② 事業報告に記載されている会社の支配に関する基本方針及び各取組み、その内容について検討を加えました。
- ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。なお、監査上の主要な検討事項については、EY新日本有限責任監査法人と協議を行うとともに、その監査の実施状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はありません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、財務報告に係る内部統制も含め、指摘すべき事項は認められません。
- ④ 事業報告に記載されている会社の支配に関する基本方針は相当であると認めます。また、そのための各取組みは、当該基本方針に沿ったものであり、当社の株主共同の利益を害するものではなく、かつ、当社の役員の地位の維持を目的とするものではないと認めます。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人EY新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人EY新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2023年5月22日

東亜建設工業株式会社 監査等委員会

監査等委員（常勤） 小川 信 行 ㊞
監査等委員 岡村 眞 彦 ㊞
監査等委員 渡邊 光 誠 ㊞
監査等委員 半田 未 知 ㊞
(佐々野 未知)

(注)監査等委員 岡村眞彦、渡邊光誠及び半田未知は、会社法第2条第15号及び第331条第6項に規定する社外取締役であります。

以上

株主総会会場ご案内図

会場 東京都新宿区西新宿三丁目7番1号 新宿パークタワー3階 パークタワーホール

最寄り駅から会場までの
アクセス



交通のご案内

- JR新宿駅南口から徒歩約17分
- 都営新宿線・京王新線新宿駅新都心口から徒歩約15分
- 京王新線初台駅東口から徒歩約8分
- 都営大江戸線都庁前駅A4出口から徒歩約8分
- 小田急線参宮橋駅から徒歩約10分
- JR新宿駅西口バスターミナル21番のりば（京王百貨店前）から「新宿WEバス」バス約8分（パークハイアット東京前）下車